

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 奈良市立京西中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒631-0846

奈良県奈良市平松四丁目3番1号

E-mail keisei-j@naracity.ed.jp

Website http://www.naracity.ed.jp/keisei-j/

幼児児童生徒数 男子 262 名 女子 277 名 合計 539 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、本校の教育目標「自分の将来像を描くことができる生徒の育成ー親和的学級集団作りと正しい言葉遣い」の実現に向けて、学校として誇れる文化・伝統を作りだす取組を進めている。ESD を人権及び基本的自由、平和及び安全の意識の促進と捉え、ESD の実践を通して生徒自身と他の生徒、さらに地域や世界の人々とつながる力の育成を目標とした。

具体的には、友だちづくり、学習支援、地域連携を柱に、①いじめのない集団づくりに係わる教育、②自分の意見が言える授業づくり、③国際理解に係わる学習、④地域連携と防災に係わる教育を行った。

① いじめのない集団づくりに係わる教育

人権教育学習資料集（県教委作成）を活用した人権学習やワークショップを実施した。また、教員の生徒を見る眼を育てるため、「よりよい学校生活と友達づくりのアンケート（hyper-QU）」を行い、集団全体及び支援を要する生徒への効果的な支援を進めた。

② 自分の意見が言える授業づくり

学ぶことの楽しさや自分の意見を受け止められ、おたがいに認められた心地

よさを実感できる学びの在り方について研修した。生徒が疑問点や考えを交換し、友達と協働して課題を解決していく学習課程を通して、どの生徒も活躍できる場づくりを心がけた。また、道徳の授業において、教師の発問に対し、個人で考えた後、班で交流したりクラスで発表したりする場面を設定するようにした。

③ 国際理解に係わる学習

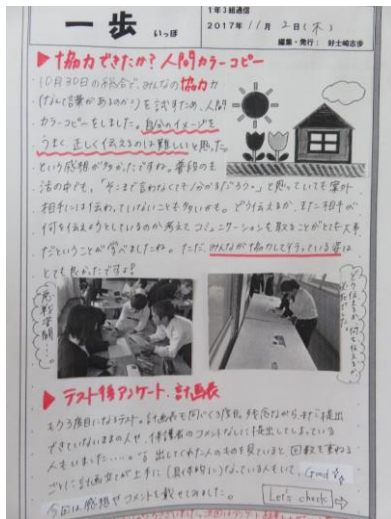
県内の大学に通う様々な国からの留学生をクラスに1名ずつ招いた。自己紹介やその国の特徴や代表的な食べ物について話してもらった。その後、生徒が日本の習慣や食べ物を紹介したり、日本の遊びを一緒にしたりして交流した。

④ 地域連携と防災に係わる教育

地域教育協議会主催の、史跡をめぐりながら地域の歴史を学び、清掃活動をするツアーが年に数回あり、これに生徒が参加した。また、防災訓練でシェイクアウトを行った後、地域の自主防災協会の方に、「自分の身を守り、他の人を助けられるようにしよう」という防災の講演をしていただいた。

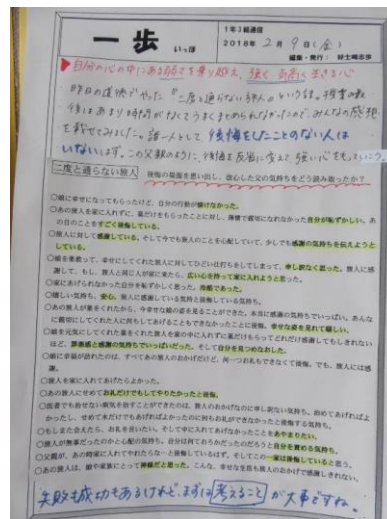
① の写真

ワークショップを紹介した学級通信



② の写真

道徳授業を紹介した学級通信



③ の写真

留学生との交流の様子



④ の写真

大池への地域散策で説明を聞く子ども達



大池は地域の方々が協力して守ってきた。この付近は桜の名所でもある。

防災訓練と講演



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

Hyper-QU「よりよい学校生活と友達づくりのアンケート」（図書文化）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校は、「自分の将来像を描くときができる生徒の育成」を教育目標として、ESDを「キャリア教育と地域連携」のテーマとして捉え、ESDの実践を通して「地域を担う子供の育成」を目標とした。
具体的には、挨拶と返事、正しい言葉遣い、親和的学級集団の育成・学習習慣の定着を柱に、①規範意識定着に係わる活動、②人権感覚の向上に係わる教育、③いじめ予防・深い学びに係わる学習、④家庭学習の定着に係わる学習を行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

持続可能な開発のための教育として、ユネスコ（ESD 教育）を捉え、人権教育部が中心となって、「hyper-QU」活用のための研修や結果の検討、人権作文及び人権絵画、平和学習などに取り組んだ。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケートに、人権、いじめ、学習、進路にかかわる内容の問いを設け、生徒・保護者の意識や感じ方を調べている。成果としては、行事などの取り組みを通じて生徒自身が自分の成果・課題が分かる。ルールやマナーを守ろうとしている。道具や器具を大切に扱っている。などがあり、課題としては、学習面では、学び方（学習への姿勢・家庭学習の取り組み）、生活面では、人権感覚、規範意識、なかまづくり、リーダーの育成が挙げられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

学校だより、学年通信、ホームページなどを利用。生徒の感想や写真などを載せることで、取り組みを知らせることと、生徒につけたい力を発信した。効果としては、学校が今行っていることに対する理解や協力が得られた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

福祉体験では、社会福祉協議会・包括支援センターなどから、実習の講師派遣などをしてもらった。また、校区の自主防災防犯会に実習の補助に協力願った。国際交流では、天理大学の留学生との交流を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

特に今はできていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本年度は「よりよい人間関係の形成といじめのない親和的集団づくり」をテーマに、まずはQ Uを生徒理解の一助とするべく、職員研修、職員会議や学年部会での話し合い、ミニ研修、ハンドブックによる自己研修等取組を進めてきた。これについては、全国学力・学習状況調査や学校評価の結果を見ると一定の成果があったように思われる。
教師自身が感じている学級の様子と、hyper-QUによる分析を照らし合わせることで、学級の課題を客観的にとらえ、職員全体で共有し、対応することができるといったことなど、教師にとっても気づきを意識させられ、同じ方向性を持った指導・支援が共通認識として持てるようになった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ① 生徒の自尊感情を育み、自他の価値を尊重し合える学級集団づくりを目指し、主体的・対話的な深い学びを意識した授業を組み立てる。
- ② 朝の会や終わりの会での話し合い、学活や道徳での意見交換、係委員会等、生徒自身による主体的な活動の充実を図る。
- ③ 人権教育学習資料集を利用した学習やワークショップを実施し、主体的な学習活動を通じて、生徒の人権に関する知的理解を深めるとともに、自ら実践する力を育成する。
- ④ 「よりよい学校生活と友達づくりのアンケート」を活用して、教員の力量を高め、教員の「生徒を見る眼」と「気づく力」を磨き高める。このデータを資料とし、集団における生徒の置かれている立場を客観的に把握するとともに、生徒と学級の事例検討を行い、担任だけでなく、学年集団・学校全体としての具体的な取組に結び付けていく。
- ⑤ 特に生徒同士の結びつき（つながり）を高めることに重点的に取り組む。